

1. 科目名（単位数）	心理学統計法（2 単位）	3. 科目番号	PSMP1141
2. 授業担当教員	岡田 順介		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。 本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。		
8. 学習目標	代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト（SPSS）を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。		
9. アサイメント （宿題）及びレポ ート課題	実際に収集したデータについて統計ソフトを用いて統計的検定を行う等、複数回の課題を課す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房、2004。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準： ①研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができるか ②データに合った解析法を選択できるか ③選択した解析法を、統計ソフト（SPSS）を使って実施し、結果を読み取ることができるか ④解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができるか ○評定の方法： 受講態度、演習への取り組み、期末レポートから総合的に評価する。 授業への参加・受講態度：30% 課題達成・レポート：40% 小テスト：30%		
12. 受講生への メッセージ	1 統計処理法はデータ処理のテクニックである。一度学べば生活や社会で役立つはずである。 2 卒業研究で実験したり調査したりする際に必要な内容である。 3 計算は電卓で行うが、分析と考察は実施者が行う。これが統計処理法である。 4 関数つき電卓があると便利である。 尚、人数等、講義の状況に応じて一部記載内容から変更される場合がある。		
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（講義概要の解説） 統計学と心理統計法および統計処理法	事前学習	教科書（心理学と数字）を読み、心理統計の社会的な貢献を理解しておく。
		事後学習	なぜ心理学に統計が必要か、および社会的貢献を熟知し、ノートにまとめておく。
第2回	実験・調査データの検定と推定（仮説検定法について）	事前学習	教科書（変数）を読む。
		事後学習	量的変数・質的変数の概念について理解し、ノートにまとめておく。
第3回	記述統計（代表値）	事前学習	教科書（代表値）を読む。
		事後学習	代表値の種類とその特徴を理解し、ノートにまとめておく。
第4回	記述統計（散布度）	事前学習	教科書（散布度・標準化）を読む。
		事後学習	散布度の種類とその特徴について理解し、ノートにまとめておく。
第5回	相関分析（散布図・相関係数）	事前学習	教科書（2変数の関係）を読む。
		事後学習	散布図の利用法・相関関係の概念について理解し、ノートにまとめておく。
第6回	相関分析（仮説の検証）	事前学習	教科書（母集団を推測）を読む。
		事後学習	相関分析による仮説検証について理解し、ノートにまとめておく。
第7回	クロス集計表と連関係数（ χ^2 検定について）	事前学習	教科書（クロス集計表）を読む。
		事後学習	連関係数の求め方・特徴について理解し、ノートにまとめておく。
第8回	まとめ（授業1～7）	事前学習	次の授業で質問できるように、これまでの授業内容についてコメント・疑問等をまとめておく。
		事後学習	質問に対する回答を理解し、ノートにまとめておく。

第 9 回	統計的仮説検定とは	事前学習	教科書（統計的仮説検定）を読む。
		事後学習	仮説検定の考え方・手順を理解し、ノートにまとめておく。
第 10 回	実験法（1）t 検定の求め方	事前学習	教科書（t 検定）を読む。
		事後学習	二つの平均値の比較の求め方を理解し、ノートにまとめておく。
第 11 回	実験法（2）対応のある・ない場合の求め方	事前学習	教科書（t 検定）を読む。
		事後学習	対応のある・ない場合の検定方法について理解し、ノートにまとめておく。
第 12 回	実験法（3）分散分析法（三つ以上の平均値の比較）	事前学習	教科書（分散分析）を読む。
		事後学習	平均値ではなく分散を利用することについて理解し、ノートにまとめておく。
第 13 回	実験法（4）分散分析法（二要因被験者内計画）	事前学習	教科書（分散分析）を読む。
		事後学習	二要因被験者内計画について理解し、ノートにまとめておく。
第 14 回	実験法（5）分散分析法（二要因被験者間計画）	事前学習	教科書（分散分析）を読む。
		事後学習	二要因被験者間計画について理解し、ノートにまとめておく。
第 15 回	まとめ（授業 1～14）	事前学習	次の授業で質問できるように、これまでの授業内容についてコメント・疑問等をまとめておく。
		事後学習	これまでの授業内容を熟知しておくこと。